

7班発表

① 54歳の男性。上顎右側中切歯の審美不良を主訴として来院した。は約30年前に修復処置を受けたが、最近になって色調が気になってきたという。自発痛と誘発痛はない。歯石はなく、口腔状態良好。



○口腔内写真、X線写真から得られる所見は



口腔内所見

- 11は天然歯に比べて色が変である。
- マージンの位置がずれている。
- 21の歯冠部中央に亀裂。
- 12の切縁にファセット
→早期接触と考えられる。



デンタル所見

- 11は根管治療がなされていて、金属コアが立っている。
- 根尖病巣はなさそうである。
- 11の近心隣接面にコアと歯質が不適合な部位がある（二次う蝕ではない）。

○審美不良の原因として考えられるものは

【形 態】

- ・ マージンの不適合
- ・ 切縁の不適合

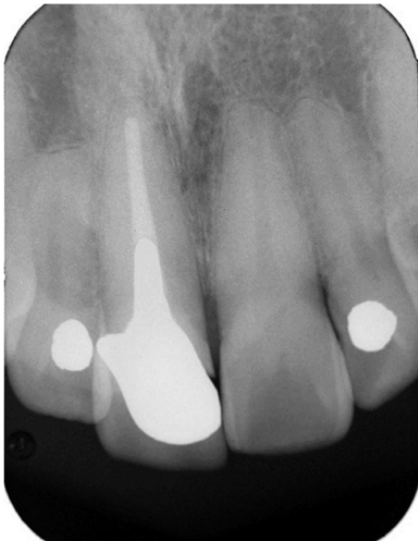
【色 調】

- ・ 天然歯と 1 1 のクラウンの経時的変化による色調の差
- ・ 歯肉が黒ずんでいる



歯肉の黒色をきたす原因

- メタルタトゥー
- 金属の溶出
→ 金合金なら溶けない
銀合金、卑金属なら可能性あり
- メラノーマ（悪性黒色腫）
- メラニン色素の沈着
- 金属色の透過
- 縁下歯石
- 2次カリエス
- 支台歯の失活による歯質の変色による透過



X線写真よりわかること

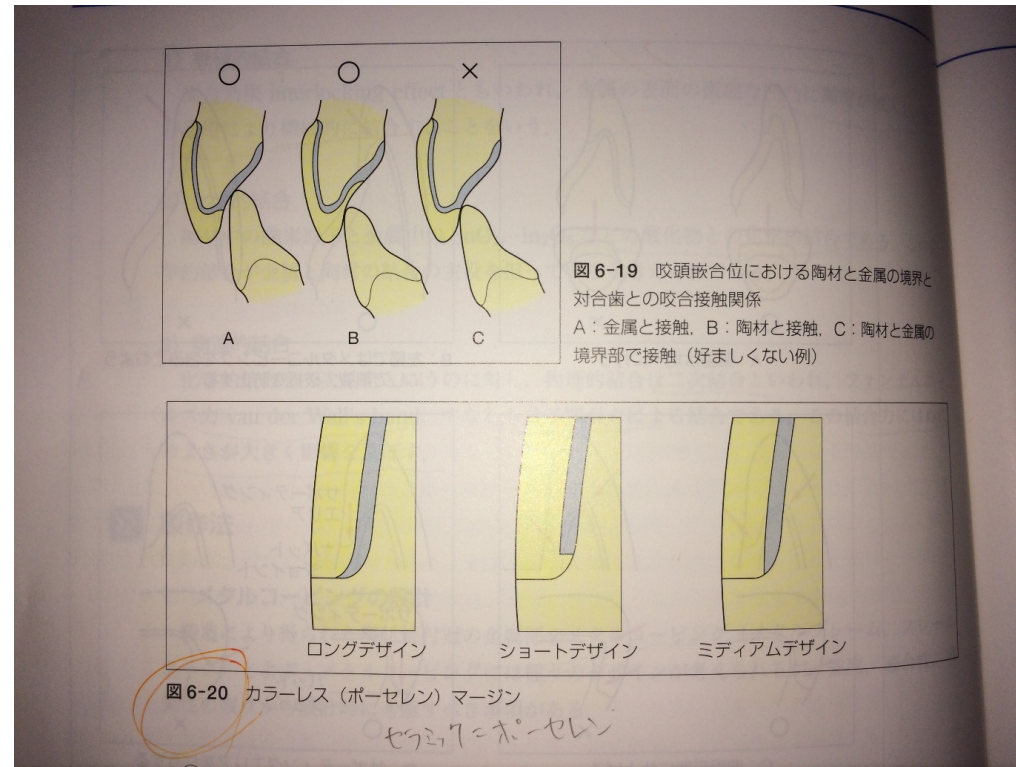
→自発痛と誘発痛はなく、根尖部病巣も認めないため、メタルコアの除去は必要なく、再感染根管処置も必要ない

30年も良好なのでむしろ再感染根管処置は悪化する可能性も出てくると考えられる。

補綴装置の選択

	陶材焼付冠	ハイブリッド型コン ポジットレジンクラ ウン	オールセラミック冠	ジルコニア	レジン前装冠
審美性	◎	○	◎	△	○
硬さ	◎	○	△	△	◎
天然歯に対 する摩耗	◎	○	△	△	◎

陶材焼付冠の設計



カラーレスマージンにするためにはフィニッシュ
ラインを歯肉縁下、かつコアよりも下に設定する

1 1 は陶材焼き付け冠で修復することとした。

診療操作

- ① ク라운の撤去
- ② 二次う蝕の検査
(う蝕検知液に染まらなかった)
- ③ 歯周ポケット検査(最深部3mm)
- ④ 支台歯形成
- ⑤ 精密印象

tec

- ⑥ メタルコーピングの試適
(シェード、咬合、マージンの適合確認)

tec

- ⑦ 冠の試適、咬合調整&形態修正
- ⑧ 陶材焼き付け冠のSET

技工作業

作業用模型作成&メタルコーピング作成

焼き付け面の研削
ディギャッシングを行う
陶材の築盛。
オペーク→サービカル→デンティン→エナメル

グレージング後メタル部の研磨。

• 支台歯形成時に必要な道具

エアータービン、FGコントラ

ダイヤモンドポイント
ショルダー用(唇側面)
シャンフアー用(舌側面)
つぼみ状バー(基底結節)









暫間被覆冠作製の術式および必要な器具は

- ①ポリクラウンの試適
- ②マージンを金冠ハサミで調節
- ③支台歯にワセリンを塗布
- ④ポリクラウンに即時重合レジン进行盛る
- ⑤歯に圧接
- ⑥支台歯からポリクラウンが外れることを確認する
(⑦重合を促進する場合は温水に浸漬する)
- ⑧形態修正 & 咬合調整
- ⑨簡易防湿 & 歯をエアーにて乾燥させる。
- ⑩セメントを練和して、ポリクラウンに盛る
- ⑪歯に圧接
- ⑫ガーゼを噛ませて初期硬化を待つ
- ⑬硬化後、余剰セメントを探針等により除去する。







Dコーナー



Dコーナー



Dコーナー



Eコーナー





モバイルキャビネット











口腔外バキューム